

新年おめでとうございます

笑顔あふれる1年でありますように

当時隔週日曜日(土曜日だったかも)の座禅会のほかに早朝座禅がありました。平日毎朝6時~8時早朝の凛とした空気の中、まだ暗いお堂の中で数名の参加者のみの座禅、そこには昼間とは違う格別の緊張感がありました。

龍雲院は文京区白山5丁目、阿佐ヶ谷からだとはほぼ小1時間、毎朝4時に起きて5時頃の総武線に乗り、水道橋で都営三田線に乗り換え、そこから2駅先の春日まで行きます。時間的にも精神的にも早朝座禅は結構大変でした。真冬の高架線のホームで電車を待ち、“なんでこんなことしているのか”なんて時に思いながら通っていたように思います。でも、何がそこへ自分を駆り立てていたのか、何を求めていたのか、当時は全く分かっていませんでした。もっとも、初めから“何”を求めているかなんて解るはずないのが当たり前なのかもしれません。本当に大切なものは求め探し続けているうちは見つからず、ある時すべてが一瞬にして腑に落ちる時が来て、“ああ、これだったんだ”と思う。そんなものなのではないでしょうか。でも、それはその瞬間が来ない事にはわからない。必ずしも誰にでも来るものではなく、来るかもしれないし、来ないかもしれないのです。でも、一つだけ確かなことは、あきらめてしまえばそこでおしまいということ。続けるよりほかはなく、ちなみに私がその瞬間を体験したのは30年もたった頃、長い時間が経っていました。

それはさておき、当時それほど長い期間ではありませんでした。早朝座禅それこそ毎日通っておりました。ある時、翌朝は大雪の予報が出た事があり、夜7時ころ、明日はどうやって行こうかなどと考えながら、長靴の用意などをしていました。その時小池老師から直々に“明日は大雪の予報です。危ないですので、お休みください。”とお電話いただいたことがありました。おそらく老師には私の性格だと多分明日も来るだろうと、お見通しだったのでしょう。何もわからないまま通っていたわけですが、毎日続けたことで得られた信用みたいなものは確実にあったような気がします。

(令和2年白山道場の座禅会は土曜日月1回 師家 円覚寺派管長 横田南嶺老師とのことです)



正月に
笑顔と福の
お裾分け